

福祉施設実習の事前事後指導に関する一考察

—学生による学びの記述内容からの検討—

Pre-post guidance on welfare institution training

—Study of learning process written by students—

矢野 正

Tadashi Yano

Abstract

In this research, we describe the objectives of the child welfare facility and the contents of the student's report on the pre-post guidance. As a result, there was a feeling of tension and a positive motivation towards student's practical training. By actually going to practical training, I thought that students want to be stronger to nursery teachers, suggesting that they are more active in studying at university.

Key words: Child welfare institution, Childcare practice, Pre-post guidance, Childcare work

はじめに

児童福祉施設は、子ども達が日々暮らしている生活の場、つまりは、子ども達の「家」である。保育実習指導Ⅰにおける施設実習（児童福祉）とは、子ども達にとっては、自分の家が、いきなりやってきた知らない人達の勉強の場になるのである。もし、自分が子ども達の立場だったらと想像してみてほしい。どう思うであろうか。

それでも先方の施設がこの実習をお引き受けしてくださるのは、ひとりでも多くの方に児童養護施設や社会福祉について理解していただきたいのと、もし施設保育士と同じ仕事に就きたいと思っている方がいるとすれば、その役に立つことで、ひとりでも多くの子どもたちに貢献できればと考えているからである。

そのような中で提供される学習の機会および保育実習の場なのである。だからこそ、この実習が有意義なものになればと筆者は常々考えている。筆者(2013)は以前、福祉施設実習の園からの評価や自己評価を分析し、実習指導の課題について考察したことがある。中島(2018)も保育士養成校における福祉施設実習の在り方を考究している。しかし大島(2017)や古川(2018)、本山・藤(2017)のように短期大学における学びや考察を、その対象としたものが多いのが特徴である。

本研究の目的は、4年制保育士養成校における実習指導の質的向上を図るための効果的な保育実習の実施・指導方法を検討し、その特徴を明らかにすることである。

I. 授業の目的・到達目標

この科目では、学部学科の学習成果「保育における基礎的技能の獲得」および「保育内容や保育方法、具体的援助の方法の理解」に対し、施設実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、明確な課題を持って実習に取り組むことができるようにする。学習成果としては、以下の4項目があげられる。

①施設実習の意義と目的についての理解 ②事前学習として福祉施設とその対象および援助の概要についての理解

③日誌の書き方、打ち合わせや留意事項について理解し実習の諸準備を整える ④実習の振り返りと報告書を作成することである。

Ⅱ. 実習の概要（課題に対するフィードバックの方法を含む）

実習の内容は概ね、以下のとおりである。

- 1) 施設実習の意義と目的について理解する
- 2) 事前学習として福祉施設について理解する
- 3) 実習の目標と課題について明確にする
- 4) 実習日誌の書き方について学ぶ
- 5) 実習の振り返りと報告書をまとめる

Ⅲ. 実習の目的・目標

実習内容は、保育所実習ともに、実習時間中、実際に子ども達と一緒に暮らしていくことになる。そこでは、一人の大人として、子ども達と生活をともにしながら（もちろん一人の大人として、炊事・洗濯・掃除といった家事手伝いもしていかなければならない）、実習目標の達成を目指していく。10日間の中では、観察実習だけではない、参与・指導実習も行う。実際の実体験の中で、学生は施設での生活のありようを学んでいくのである。

実習目標は、概ね次のとおりである。

- ① 子ども達にとってどんな場所なのかを理解する。

実習施設は、主に児童養護施設である。ここは、子ども達にとってどんな場所なのか、どんな場所でなくてはならないかを、子ども達や職員と一緒に暮らしながら理解していくことになる。

また、今の児童養護施設には、何が足りないのか（改善すべきところはないか）についても一緒に考えてみたい。

- ② 各職員は子ども達にとってどんな存在であるべきかを理解する。

実習期間中に生活する中で、各職員は子ども達にとってどんな存在（役割）を担っているのかを理解してみたい。とくに、直接処遇職員（保育士・児童指導員）の実習であることから、その役割を近くで見たり、実際に担ったりすることにより、どのような職員であるべきか、どんなスキルや保育技術が必要なのかを理解し、習得をする。

- ③ 自分で掲げた目標にしっかり取り組む。

実習にあたり、自分なりに立てた目標があるであろう。その目標が達成できるよう、精一杯の努力をしてほしいと考える。

Ⅳ. 事前課題

以下の論述内容は、保育実習（施設）に参加する前に本学学生が書いたものであり、事前指導のスタート時にそれぞれの学生に書いてもらった、施設実習への意気込みや心意気である。

なぜ、福祉施設で実習をしようと思ったのか、この実習をすることで、何を期待しているのかをおりませながら、課題の作文・レポートを書いてもらった。字数は800字（原稿用紙1枚）以上としたが、満たないものも散見される。まずは、同じ教育・保育を志す同志の論考として、じっくりと読んでいただきたいと考える。

(1)「施設実習で学びたいこと」学生Aさん

養護施設と聞くと、子ども自身がなかなか対人関係を築くことが難しいイメージがある。また、児童養護施設なので、子ども自身が親に対して嫌な思いなどをしてそうなイメージで、実習に行くことで自分自身が精神的に疲れてしまいそうな感じがしている。

しかし、児童養護施設について調べてみると、親のやむを得ない状態によって入所している子どもや親からの虐待によって入所している子どもも多数いる。そのため、様々な状況の中で入所しているため、私はこの実習を通して、子どもの心の開き方について学びたいと思っている。

今後、教育現場の中で、たくさん子どもと接することになるが、一人ひとり子どもの置かれている状況は異なると考える。そんな中、教師の些細な言葉がけが子どもにとって嫌な事だったりすると、心を閉ざされることになりかねない。初対面の時の声かけは難しく、相手のことがわからない状態だと、さらになんと声をかけたらいいのかわからなくなるため、相手とのコミュニケーションをとるときにお互い傷つくことがないようにするためには、どんな言葉があるのかをしっかりと学びたい。

私は、施設実習の2週間で学びたいことは、「コミュニケーション能力」についてである。この能力を磨き、身につけることを通して、相手に応じて適切な言葉や表情を身につけることができるようにしたい。そのためにも、自ら積極的に子どもたちに声をかけ、様々なコミュニケーションをとっていきたいと考える。

(2)「施設実習Ⅰ レポート課題」学生Bさん

私は、施設実習を通して様々なことを学び、吸収して無事に終えたいと考えている。具体的には、施設の実態や、施設で過ごしている子どもたちの様子、施設の職員と子どもたちの関わり方を知り、これからの活動にいかせるようにしたい。

児童養護施設には、保護者のいない児童、虐待を受けた児童、その他の養育環境上、養護を必要とする児童が入所している。入所している児童の一人ひとりが多くの課題を負っているため、一人ひとりを知り、受容的な関わりを意識していきたい。

児童養護施設といったような、施設と関わることは初めてのことで自分の中では未知な世界のため、とても緊張しているが、施設の方や子どもたちに迷惑をかけないように楽しみながら活動できたらよいと考える。また、このような実習は、国家資格でもある保育士資格を取得するために必要な実習でもあるため、自分の理想の保育士に少しでも近づくために、精いっぱい努力し頑張っていきたい。

(3)「施設実習で学びたいこと」学生Cさん

私が今回の施設実習で学びたいことは、施設の現状を知ることと、そこで暮らしている子どもたちとのかかわり方である。

その理由は、「施設」というところがどういったところなのか全くと言っていいほど知らないからである。老人ホームや幼稚園・保育所などは何となくこんな所だなとイメージができ、どんな活動内容をしているかなどは少しだけでも知っているが、「施設」は行ったこともニュースなどで見ることも少ないため、どんなところなのかイメージができない。したがって、今回の施設実習で実際に行ってみて、どんなところなのかというのを、体験を通して知りたいと考える。また、その施設にいる子どもたちは何かしら悩みを抱えている子どもが多いと考えるので、実習を通して

どのようなかわり方をしていけばよいのか、どのようなことに気をつけなければならないのかを学びたい。

この施設実習での体験や学んだことを、実際に小学校教諭や幼稚園教諭・保育士になって、もし、自分のクラスに施設から通っている子どもがいたときに、どのようなかわり方をすればよいのかなどを活かせるといいなと考えている。

(4)「保育所実習で学びたいこと」学生Dさん

私が保育所実習で学びたいことは、幼児の成長にあたって、先生はどのような点を注意して指導をしているのかということである。また、保育所内の子どもの中でも、積極的な子どもや消極的な子どもで、別れていると考える。積極的な子どもと消極的な子どもでは、内面性からどのような違いがあるのかという所を学べたらよいと考える。

私は幼稚園で育ってきたので、まずは保育園と幼稚園の違いを現場で感じていきたいと考えた。幼稚園とは違って0歳児から6歳児までの幅広い年齢にどのような保育・教育の違いがあるのかも見ていけると良いと考える。

(5)「施設実習指導Ⅰ レポート」学生Eさん

私がこの施設実習で学びたいことは、施設の子どもたちがどのような場所で、どのように生活をしているのか。そして施設で生活をしている子どもたちとのかかわり方などである。

私は施設がどのような場所で、そこで生活している子どもたちの様子がどのようなものなのかを情報だけでしか知らない。そのため、まずは実習に行く前に、自分の実習先の施設がどのような取り組みを行っているのかを、しっかりと把握しておくことが必要である。また、施設に入所している子どもたちの背景にはさまざまな事情があるということを、きちんと理解しておかなければならない。

なかには、無視をしたり乱暴な言葉を言ってきたりする子どももいるかもしれない。しなし、その発言や行動に怯まず、広い心を持って子どもたちと向き合いたい。そして、子どもたちに受け入れてもらえるよう、一人ひとりの個性を理解し受け入れ、自分から積極的に関わって、援助をしていきたいと考えている。

2週間という短い期間であるが、施設で生活をしている子どもたちとの関わりや施設での活動の多くのことを学び、そして自分自身も楽しみながら、実習に取り組んでいきたいと考えている。

(6)「施設実習Ⅰ レポート課題」学生Fさん

○施設実習についての意気込み

これから学習する施設実習について、私は2つのことを目標としたい。

1つは、児童養護施設とはどういうものなのかを理解することである。私は、児童養護施設がどのような施設なのかを、はっきりとは把握していない。そのため、まずは実習で児童養護施設とはどのような施設なのか、事前に自分のイメージを持ち、実際の体験から自分なりの児童養護施設に対する考えを深めたい。

もう1つは、施設の子どもたちと積極的にコミュニケーションをとり、子どもたちの実態を把握することである。事前の配布資料から、子どもたちの様子をなんとなく理解することができた。その子どもたちに対して、はじめは必ず不安や戸惑いを持つと思われる。だからこそ、初めは子どもたちをよく観察し、挨拶など自分から積極的に子どもたちに声をかけるようにしたいと考える。

(7)「施設実習」学生Gさん

私は、施設実習を通して、施設で暮らしている子どもたちとのかかわり方や子ども同士の関わり方について学びたいと考えている。私たち実習生が行くことで、戸惑いが生まれるかもしれないが、施設の方の行動を観察して、そこから得たことを実践できるようにして、子どもたちとかかわっていきたいと考える。

心を開いてもらうには時間がかかると思うが、諦めずにコミュニケーションをとることや、子どもと関わることで外の家事などから自分の存在を受け入れてもらえるように努力をする。また、施設で暮らしている子ども同士がどのようなかかわり方をしているのか、いろいろな年齢層がいる中で、一人ひとりがどんな生活をしているのか知りたい。

そのために、自分から積極的に関わっていくことを心がけて、短い時間で全員とは難しいとは思われるが、少しでも多くの人と打ち解けられるように子どもの気持ちを考えながら、コミュニケーションをとるように頑張りたいと思う。子ども一人一人と向き合う際には、その子どもに合った言葉かけができるように、ほかの人との話し方を観察したり、施設の方に子どもの実態などを聞いたりしてかかわるように気をつけたい。そして、家庭的な家事・炊事・洗濯も自ラ行い、一つひとつの仕事の意味を考えて、子どもたちが安心して暮らせる環境を作りたいと考える。

施設実習は保育所実習と違って、日常生活から子どもたちを知ることができる機会でもあるので、自分から子どもたちとたくさん関わっていき、分からないことはきちんと施設の方に聞き、指示がないときは自分から仕事がないか尋ねて、自分の学びになるようにしたいと思う。短期間で自分にできることは何か考えて行動し、いろんなことを吸収して将来に生かすことができる、そんな有意義な実習になるように頑張りたい。

(8)「施設実習Ⅰ」学生Hさん

○施設実習で学びたいこと

私は今回の施設実習において学びたいことは、積極的に子どもたちに関わり、信頼関係を築くにはどうしたらいいのかということである。さらには、信頼関係を築いたうえで子どもたちへの指導の仕方を、職員の方々から学びたいと考える。

実習において初めて出会う子どもたち、しかも、親がいなかったり、虐待されていたりする子どもたちなので、余計にコミュニケーションの取り方の難しさがあると思う。そこで、職員の方たちにアドバイスをもらったり、自分から笑顔で積極的に関わっていったりすることで、子どもたちとの信頼関係の築き方を学んでいきたいと思う。また私は、子どもたちに対して悪いことは悪い、と叱ったり、指導したりすることが大変苦手である。これは幼稚園の先生になったり、保育士になったりしたときには、確実に必要となる能力なので、職員の方々の実際の指導の場面などを見て学んでいきたいと考える。

以上のことが、私の施設実習において学びたいことである。このほかにも児童養護施設にいる子どもたちの現状を知ったりと、まだまだ多くのことを学んだりしたいと思う。しかし、全ては難しいと思うので、できるだけ積極的に動いて、一つでも多く自分の学びにつなげたいと考える。そして、これから教師を目指していく中で必ず必要となる、子どもたちへの理解というものをしっかりとできるようになりたいと願う。

(9)「施設実習」学生Iさん

私は今回の施設実習を通して、児童福祉施設や障害者福祉施設について知ることができたらよいなと感じている。今まであまり行ったことがない施設であるので、上手くやっていけるのだろうかという不安はもちろんあるが、保育

士になるためには乳幼児の保育に加え、児童の生活指導や生活すべてについても指導したり、障害児とのかかわり方も大切になったりすると私は考える。しかし、私には今、そのような知識も技術も全くない。そこで、今回の施設実習を通して、実習に関する知識と技術を身につけたいと考えている。他にも、対人援助の重要性や困難さについて身を持って知り、子どもや利用者をめぐる社会的支援の現状や課題など対人援助の背景についてもしっかりと学んでいきたい。

(10)「施設実習で学びたいこと」学生Jさん

児童養護施設で暮らしている子どもたちとのかかわり方。どのような声かけをすればいいのか。悪いことをしたときの叱り方。試行動をしている子どもにはどのように対応したらいいのか。子ども同士の関わり。以上の5つを、施設実習を通して学びたいと考えている。

(11)「施設実習の意気込み」学生Kさん

私は、実習中に分らないことや疑問に思ったことは、必ず質問することを心がけていろいろなことを学ぼうと思う。実習を自分の体験だけで終わらせてしまうのか、それ以上のものを得るのかはどれだけの質問をするかで、全く学びの質が変わってくると思うからである。

また、実習全体を通しての行動目標と毎日の行動目標を絶えず持たなければ、実習期間は何となく過ぎて行ってしまうと思われるし、無駄な時間になってしまうので、きちんと目標を持って、その日一日を過ごしたいと考える。

そして、いろいろな事に挑戦し、やりたいこと、見学したいことはどんどんやりたいと、職員の方に意欲的に積極的に声をかけていこうと考える。

事前学習（施設の成り立ち、根拠法、施設の目的の概要などではなく、児童の施設なので、子どもたちとできる遊び、レクリエーションなど）をきちんと準備していこうと思う。なぜなら、事前学習を十分にしておくことで、実際の体験を文献と比較することができ、より理解が深まると思うからである。

(12)「施設実習で学びたいこと」学生Lさん

- ① ためし行動の対応の仕方
- ② 叱り方の工夫
- ③ 職員はどのようにして家族としてかわるのか

(13)「施設実習」学生Mさん

○実習で学びたいこと・意気込み

- ・一人ひとりの子どもに根気強く触れ合うようにする。
- ・子どもそれぞれに合った関わり方を見つけ、かかわるようにする。
- ・施設の方がどのようなアプローチをしているのかを観察し、子どもがどのような反応をするのか、どのような影響があるのかを知る。
- ・言葉かけ、言葉づかいに気をつけ、注意する。
- ・信頼関係の築き方について実践的に学ぶ。

- ・子どもの関わり方について学ぶ。

(14)「施設実習の意気込み」学生Nさん

施設実習で学びたいことは、大きく2つある。1つは、実際の施設はどのようなところなのかを知ることである。どんな活動をしていて、また、職員の方が子どもたちに対して、どのようなかかわり方をしているのかを見て、それに対して子どもはどのように返しているのかも学びたい。2つ目は、大学で学んだことは、現場でどのように生かせるかをこの実習で知りたいと考える。

気をつけたいことは、何かの道具を使用する際に危険な使い方をしていないかなど、子どもが怪我をしないようにすることと、普段の生活であまり徹底できていない報告、連絡、相談についても、この機会にしっかりと身につけられるようにすることである。

これらだけではなく、限られた時間の中で少しでも多くのことを学べるように頑張りたい。

V. 事後指導のレポート

事前・事後指導ともに、実習の合間を縫って行われるため、五月雨式の実習である。2018（平成30）年の10月までに終了している3名の実習事後の学びを、後輩へのアドバイスやメッセージとして書いてもらった。これらは今後の幼稚園専修の学生にとって、施設実習（児童福祉）に行く上での参考となるもの、貴重な生の声であると考えられる。

(1) 学生Aさん

子どもの名前をすぐに覚え、一人ずつどのような特徴や特性があるのかを把握しておくべきである。集中力が続かない子どもや何度も言われなければ伝わらない子どももいるので、それを関わりの中から見つけることが大切である。さまざまな遊びを知っておくことと、現代の子どもが好きそうなTVや音楽を知っておくことで、子どもたちとの話が深まると考える。

(2) 学生Bさん

職員の方は忙しくて、その場で分からないことを質問することは難しいかもしれないが、すぐに疑問に思ったことを聞いて解決した方が職員の方も助かると言っていたから、した方が良い。また、何事も元気に明るく前向きに積極的に業務に取り組むことで、そのことを職員の方はきちんと見てくださる。その分の評価もしてくださるので、安心できる。

(3) 学生Cさん

実習活動中に困ったこと、分からないことがあれば、些細なことだとしても相談した方が良い。子どもたちと関わるのも、積極的に声を掛ける。

VI. まとめと総括

今年度の学生が実習に行った乳児院や児童養護施設の子どもたちにとって、施設というのはまさに施設入所の子ど

もたちの生活の場であり、社会的かつ家庭的養護の原点である。施設保育士や保育者の愛を一身に受けながら、温かな雰囲気の中で子どもたちは豊かに生活を送っている。児童虐待など、現代におけるより複雑な家庭環境を背景とした、子どもたちの入所理由はさまざまである。

さて、10日間と言う短い期間で学生は何を学んだであろうか。具体的な記述や要約からは、学生の緊張感や臨場感というものがよく伝わってくる。事前指導では、明確な自己課題を持つことの意義が明らかとなった。したがって、学生の不安軽減につながる指導が望まれる。子どもの理解や生活の場における実習であることの認識、守秘義務などが課題である。

また事後指導からは、次の学びにつながる事後評価のための評価方法の見直しの必要性が示唆される。さらに、保育士養成校と保育現場の共同・協働による実習指導が望まれる。本研究の結果、改めて自己と向き合うことができ、生き方を見つめられるようにすることの重要性が示唆される。このように、学生の記述内容からは、初めは相当にネガティブなイメージを持っていることが窺われ、実習後にはそれは解消し、ポジティブな考えや捉え方に移行していたものと推察できる。

訪問指導の工夫も今後の課題である。学生の自己課題が達成できるように実施することの重要性や不安の解消、意欲低下の軽減が期待される。

施設保育士としてのスタートはすでに始まっている。ぜひとも今後の勉学に勤しんでほしいと願っている。社会福祉の一端を担う保育士として現場や社会に巣立つのを楽しみに待っている。

最後に、本研究の残された課題は、事例数が限られたことにある。少ない保育士課程登録者にとどまっており、定員枠を今後20名から40名まで増員することになっている。さらに、分析方法も記述を網羅したのみにとどまっており、質的分析としてはテキストマイニングやM-GTA（修正版グラウンデッドセオリーアプローチ）などの手法を用いて明らかにすることも必要であろう。学生の学びがどのように深まったのかを、論考の中で丁寧に可視化する作業が当然に必要な。先方の施設からの評価を踏まえた事前・事後指導の考察も十二分に考えられる。したがって、本研究は研究論文ではなく、資料として掲載された。

おわりに

近年、保育士の数の不足から、質を下げてでも有資格者を増やすべきという議論も一方である。保育士養成の質の向上に向けて、2年制と4年制で資格のグレードを分けることも今後、必要であろうと考えられる。

さらに保育所保育士は保育教諭に移行し、施設保育士は独自の資格とするなどの抜本的な国の施策・運営の方向性のかじ取りにもかかっている。これからの児童福祉学の発展を強く願いたい。

【引用・参考文献】

- ・岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎（2016）「保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック」株式会社みらい
- ・矢野正（2013）「本学学生の福祉施設実習の評価と課題」湊川短期大学紀要 第49集 pp.23-26
- ・小倉毅・土谷由美子（2010）「保育士養成課程における施設実習に関する課題：アンケート調査からの一考察」中国学園紀要第8号 pp.77-88
- ・中島健一郎（2018）「保育士養成課程における施設実習指導に関する一考察」子ども教育研究（相模女子大学）臨

時増刊号 pp. 50-59

- ・大屋陽祐・小野澤昇・望月 文代 (2018)「施設実習における実習指導のあり方に関する一考察：年度による比較調査からの考察」育英短期大学幼児教育研究所紀要 (16) pp. 11-17
- ・小佐々典靖・城戸裕子・鈴木靖之 (2018)「保育士養成校における施設実習に対する不安と変化」浜松学院大学教職センター紀要 (7) pp. 39-52
- ・古川隆幸 (2018)「社会的養護施設実習を終えた学生の意識について(2)：佐賀女子短期大学生へのアンケート調査より」佐賀女子短期大学研究紀要 52(2) pp. 155-164
- ・本山芳男・藤京子 (2017)「施設実習指導授業への促進的試み」千葉敬愛短期大学紀要 (39) pp. 359-371
- ・大屋陽祐 (2017)「施設実習に対する実習前後の意識変容に関する一考察：短期大学生に焦点を当てた調査から」育英短期大学研究紀要 (34) pp. 29-36